

韮崎市歴史上の人物 三枝善衛

三枝善衛は、明治二三（一八九〇）年五月九日、北巨摩郡穂坂村三ツ沢三枝善兵衛の長男として生まれた。三枝家は村内での旧家で、その家産は家屋敷の「三枝之碑」にくわしい。

善衛は明治七年四月、山梨県立第盲学校（の甲府中学校、現在の甲府一高）に入学した。同期生の塩田義遜（のち文学博士）と肝胆相照らし、二人の親交は生涯つづいた。

明治四二年三月甲府中学校を卒業、ついで小学校教員検定試験に合格、同四五年から大正八（一九一九）年まで穂坂・穴山・韮崎・塩崎各小学校で教鞭をとった。教職を退いたのは父が隠居し、家業をつぐためであった。

考古学

善衛は学究的な性格であった。郷里茅ヶ岳山麓の穂坂付近や、八ヶ岳山麓から七里岩台地高にかけて出土する土器去器の頸を多年にわたり収集、研究した結果、穂坂地内に飯米場遺跡ほか二〇か所の埋蔵文化財包蔵地を確認し、その研究を学界に詳細に報告した。善衛の考古学上の業績は『山梨県政六十年誌』・『楡形町誌』・『増穂町誌』等にくわしい。

堰の研究 徳嶋堰

穂坂の歴史は人と水の闘争史である。幸衛の家から程遠くない三之蔵風越山に、享保五（一七二〇）年に建てられた「大穴口之碑」がある。その一節に「国主、天下得易キモノ水ニ如クハナシ、而ルニコノ村、ヒトリソノ得易キモノヲ得ザルヲアハレミ」とある。藩主柳沢公（吉里）が民意を汲み、穂坂堰開鑿を決意し、村民亦拳つて献身的に工事に従ったので、予期よりも早く完成した事実を記している。

また善衛の母校穂坂小学校の庭に、明治二三年五月に建てられた「永懐渠之碑」がある。これは柳沢公の仁政と、祖先の労苦を永く懐い、感謝する心で建碑されたもので、日夕これらを読んで感激した善衛は、正確な史料により祖先の事績を子孫に伝えようと決意した。

こうして考古学研究とならんで朝穂堰・穂坂堰・楯無堰の研究に没頭したが、さらに昭和一九年には釜無川右岸の徳嶋堰にまで研究領域を拡大した。徳嶋堰は、上円井村に起こり西郡筋飯野村に至る大灌漑用水路である。昭和二八年は同堰開鑿の功労者徳嶋兵左衛門の二七〇年遠忌に当たった。同堰組合は徳嶋堰沿革史編纂を善衛に託した。善衛は史料を博搜して執筆、同三四年に不朽の名著『徳嶋堰』を完成した。

農業経営の合理化

善衛は、農業経営の合理化には有畜農業が必要不可欠なことを痛感し、昭和七年以来三〇年間、あらゆる努力と犠牲のもとに、優良綿羊の導入と増殖、羊毛加工技術の指導、綿羊農協組合の設立と運営に寧日とてなかつた。遂に推されて昭和二三年に県綿羊農協組合長、同三六年には日本綿羊協会理事に就任した。

善衛の文化人としての活動は山梨郷土研究会理事・山梨県文化財調査委員・韮崎市文化財審議委員長・韮崎市誌編纂委員長などである。

善衛の多方面にわたる多年の功績に対し、山梨県は昭和三三年に山梨県政功績章を、また国は同四二年勲五等旭日章を贈り顕彰した。昭和四六年八月六日、享年八二歳で易賛した。〈佐藤八郎氏〉